

科目名	相談援助実習指導(2年次分)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	藤井 成樹		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	特別養護老人ホームにおいて 相談員として勤務		
対象学科・学年	こども保育科2年						
授業概要	相談援助実習への具体的な準備を行う。 1回目実習の振り返りを通し、2回目実習の準備をする。 個別支援計画について理解し、アセスメントを実施し、模擬的に支援計画を立案できるようになる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				個別支援計画とは何かについて説明できる。	
	○	○				ケアマネジメントの流れを説明できる。	
	○	○				アセスメントを実施できる。	
		○		○		個別支援計画を作成できる。	
			○			利用者の方と円滑なコミュニケーションを図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	相談援助実習の手引き						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ケアマネジメントについて			1年次実習の実施を見直しておくこと。		
	2	1年次実習の振り返り。(施設の役割、自分・友人の実習の評価)			1年次実習の実施を見直しておくこと。		
	3	社会福祉士の倫理について			社会福祉士の倫理綱領について確認しておくこと。		
	4	エンパワメントについて			実習の手引きの該当部分を読んでおくこと。		
	5	ICFの視点について			実習の手引きの該当部分を読んでおくこと。		
	6	自己覚知、カウンセリングマインド、バイスティックの7原則について			実習の手引きの該当部分を読んでおくこと。		
	7	個別支援計画帳票の確認			実習の手引きのケアマネジメントに関する部分を読んでおくこと。		
	8	個別支援計画策定演習Ⅰ 中島すえさんの事例より			実習の手引きのケアマネジメントに関する部分を読んでおくこと。		
	9	個別支援計画策定演習Ⅱ 春日明子さんの事例より①			実習の手引きのケアマネジメントに関する部分を読んでおくこと。		
	10	個別支援計画策定演習Ⅱ 春日明子さんの事例より②			実習の手引きのケアマネジメントに関する部分を読んでおくこと。		
	11	実習目標の設定(実習計画書作成)			前回の実習の振り返りをしておくこと。		
	12	実習前面接			想定問答の準備をしておくこと。		
	13	直前指導。記録について。			前回の実習の振り返りをしておくこと。		
	14	直前指導。実習の心構え、持参物の確認。			前回の実習の振り返りをしておくこと。		
15	実習の注意事項についての確認。			前回の実習の振り返りをしておくこと。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)実習前面接も評価の対象とする。(3)15回目の授業で実習に関するテストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	○	○				25%
	実習前面接	○	◎		○		25%
	実習テスト	○	◎		○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	家庭支援論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下 藹子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	保育園において 園長として勤務		
対象学科・学年	こども保育科2年						
授業概要	<p>時代の変化とともに家族を取り巻く社会状況・家族技能が著しく変化している。子ども・親・子育ての中の親への適切な援助とともに、子育てが楽しいという実感、地域社会の中で孤立することが無いよう家族を支援することについて学ぶ。</p> <p>1. 家庭支援の役割(対象)、2. 子どもと家庭関係、3. 保育士による家庭支援、4. 在宅子育て家庭支援、5. 保育所・幼稚園における家庭支援、6. 要保護児童とその家庭への支援、7. 個別支援、8. 法・制度・機関、9. サービス など</p>						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		家庭支援とは何か、その理念又法・制度などを説明できる。	
		○		○		現場で想定される、保護者からの相談内容に対する対応方法を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる家庭支援論						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	家庭支援の対象と役割①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	家庭支援の対象と役割②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	子どもと家族①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	子どもと家族②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	保育士による家庭支援 親になるプロセス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	保育所・幼稚園における家庭支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	保育所・幼稚園における家庭支援 V. 在宅子育て家庭への支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	V. 在宅子育て家庭への支援 VI. 要保護児童とその家庭への支援 VII. 家庭への個別的な支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	・在宅子育て家庭への支援・特別なニーズを持つ親子への支援・乳児院・児童養護施設の家庭支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	家庭支援に関わる法・制度				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	IV. 子どもや家庭を支える機関や人①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	IX. 子どもや家庭を支える機関や人②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	IX. 子どもや家庭を支える機関や人③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	X. 保育所における保育サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	X. 保育所における保育サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
評価方法	<p>毎回実施する小テスト及び毎回の授業態度、定期試験を以下の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト・授業態度	○	○		○		50%
	定期試験	○	○				50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岡本エミ子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	保育園において 園長として勤務		
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	「子ども家庭福祉」の理念とは、子どもの基本的人権を尊重し、子どもが適切な環境のもと健やかに生まれ、成長、発達し、自己実現が図られる状態になることです(well-being)。そのためには親の権利を守り、子どもを育てやすい環境の整備が必要となります。国や地方自治体、社会全体で協力し支援していくことです。そのために子ども家庭福祉について総合的に学び理解をする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					子ども家庭福祉の歴史、現代社会の現状を説明できる。	
	○					児童福祉6法の種類と内容を知り、説明することができる	
	○	○				保護者支援のための法律や機関を知ることにより実際に支援ができるようになる。	
	○	○	○			保育の現状や知識を学び、子ども一人一人を大切に保育について説明できる。 虐待対応をするために必要な知識を得て、実際に虐待対応をするための手段・制度について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	児童家庭福祉について					
	2	現代社会と子ども家庭福祉: 少子化の現状、増える共稼ぎ家庭の増加と雇用問題、子どもの生活習慣の変化			教科書およびインターネット等で調べて発表する		
	3	情報メディアと子どもの健全育成: 食生活の変化と食育の推進、赤ちゃんポストについて			教科書およびインターネット等で調べて発表する		
	4	日本の子ども家庭福祉の歴史: 明治期以前、明治期以降、第2次大戦以後の児童福祉			教科書およびインターネット等で調べて発表する		
	5	児童福祉6法とその内容: 児童福祉法、児童扶養手当法、児童手当法ほか。里親制度			教科書およびインターネット等で調べて発表する		
	6	子ども家庭福祉の機関と専門職			教科書およびインターネット等で調べて発表する		
	7	児童養護施設について、大村子どもの家			授業内容をしっかり確認し、レポートを出す		
	8	保育の問題と現状、待機児対策			授業内容をしっかり確認し、レポートを出す		
	9	カウンセリング・マインドの保育			授業内容をしっかり確認し、レポートを出す		
	10	保護者支援について			授業内容をしっかり確認し、レポートを出す		
	11	保幼少連携、地域交流			授業内容をしっかり確認し、レポートを出す		
	12	虐待の防止と支援: 虐待の種類、児童相談所における虐待対応			教科書およびインターネット等で調べて発表する		
	13	保育所における虐待対応の仕組みと事例研究			教科書およびインターネット等で調べて発表する		
	14	障がい児福祉施策: 施設サービス、居宅サービス、経済的サービス			教科書およびインターネット等で調べて発表する		
15	仕事と生活の調和(ワークライフ・バランス): 育児休業制度、企業の取り組み、男性の子育て参加を促進する取り組み			教科書およびインターネット等で調べて発表する			
評価方法	(1)学生全員に課題を振り分け、授業の中で担当者が発表し、それを受けグループで検討・質問・応答を行い課題を深めていく。(2)小レポートを数回実施する。(3)小テストを数回実施する。(4)定期試験(レポート)を実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト	◎	○				10%
	小レポート		○		◎		20%
課題	○	◎		◎		20%	
履修上の注意							

科目名	保育原理						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岩田佐知子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	幼稚園において幼稚園教諭として勤務		
対象学科・学年	こども保育科2年						
授業概要	<p>保育とは何かということに関する理解と考察を深め、保育者として子どもや保護者に関わるために必要となる基本的な視点や取り組みの姿勢を深める事を目的とする。</p> <p>制度としての保育施設の役割や目的の理解から保育目的や意義を考察する。そして、子どもの発達にとって集団や環境、遊びがいかに重要であるかという点から保育内容や子ども観などを検討する。また、保育の思想や歴史を概観する事から、現代の保育との関係や継続性の理解を深める。</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				保育の意義について説明することができる。	
	○	○				保育の内容と方法の基本について説明することができる。	
	○	○				保育の思想と歴史の変遷について説明することができる。	
	○	○				保育の現状と課題について考察し、保育に対する自分なりの見識を述べる事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学 保育原理 ・ミネルヴァ書房 保育原理						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	保育所、幼稚園、認定こども園の違い			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	第1章「保育」とは何か			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	第2章保育の基盤としての子ども観			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	第3章子ども理解から出発する保育			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	第4章子どもが育つ環境理解			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	第5章保育内容・方法の原理			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	第6章保育の計画と実践の原理			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	第7章保育における健康・安全な原理			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	第8章多様な子どもと共に育つ保育			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	第9章保育の歴史に何を学ぶか			前回の復習 レポート作成 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	第10章保育者に求められるもの			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	第11章現代の子育てと子育て支援			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	第12章保育の現状と課題			前回の復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	最終章「保育原理」の原理を問う			前回の復習 プリント整理、正試験対策		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○		○		50%
	定期試験	○	○				50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	パソコン実習						
科目名(英)							
単位数	1.5	時間数	23	担当者	平野 久美子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	Word、PowerPointの基本操作から学び、文書の作成、プレゼンテーションについて、知識を習得していく。練習問題、課題作成などに応用できる力を身に付け、実践的に役立てていけるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					Word、PowerPointなどを使用し、ビジネス文書の作成をすることができる	
		○				練習問題を解くことによって理解度を確認し、適切な文書作成ができる	
			○			ブラインドタッチを習得し、10分間で300文字以上の入力ができる	
				○		用途に応じて適切なソフトを使用し、報告書の作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	・FOM出版 よくわかるWord2016&Excel2016&PowerPoint2016 改訂版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	事前準備・テキスト概要説明・タイピング(自己紹介文作成)					
	2	Wordの概要・起動・画面構成・終了				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	ビジネス文書新規作成・削除・挿入・移動・コピー				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	文章の体裁を整える・印刷・保存				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	office2016の基礎知識・練習問題				テキストP51練習問題を確認しておくこと	
	6	ワードアートの挿入・画像の挿入・ページ罫線				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	表を作成・書式・段落罫線を設定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	office2016の新機能・練習問題				テキストP76練習問題を確認しておくこと	
	9	総復習				テキストP99練習問題を確認しておくこと 前期試験を実施するので、総合問題などで復習します	
	10	試験(実技・筆記)					
	11	課題作成				実習報告書をWordで作成するための資料収集と課題を作成します	
	12	課題作成				実習報告書をWordで作成するための資料収集と課題を作成します	
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)課題を作成し発表する。(3)定期試験(実技・筆記)を実施する。以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満とする)。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	小テスト		○				15%
	発表・作品		◎		○		20%
	タイピング			○			15%
履修上の注意							

科目名	教育実習指導(前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	岩田 佐知子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が円滑に有意義に行われるように、教育実習に関わった基礎的な知識の理解を深めていく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		教育実習のに向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎知識を理解する。	
	○	○		○		記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。	
	○	○		○		「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・同文書院 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育園・児童福祉施設等実習ガイド ・近畿大九州短期大学 幼稚園実習事前指導 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、シラバス説明、評価方法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	Part1 実習の準備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	Part2 幼稚園・保育所等実習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	Part3 児童福祉施設等実習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	Part4 児童厚生施設実習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	Part5 保育実技				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 材料準備	
	7	Part6 実習のしめくり				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	実習依頼リストアップ				実習先を検討しておく。	
	9	実習依頼訪問の心構え				身だしなみ、面接の練習をしておく。 実習目標を明確にしておく。	
	10	実習前面接				身だしなみ、面接の練習をしておく。 実習目標を明確にしておく。	
	11	アポイント取り、実習依頼時必要な書類作成				実習調査票の下書きを準備する。	
	12	製作、発表				材料を準備して製作する。	
	13	製作、発表				材料を準備して製作する。	
	14	製作、発表				材料を準備して製作する。	
15	製作、発表				材料を準備して発表する。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施なし。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)実技試験を実施する。 (4)実習評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習評価	○	○		○		50%
	宿題・レポート	○	○		○		20%
	発表・作品	○	○		○		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、実技試験の受験資格を与えない。						

科目名	教育相談						
科目名(英)	educational consultation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高巢明子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	カウンセリングやコミュニケーションの知識と技術について、以下2点の学習を通して学ぶ。 ①自分自身について考え、自己理解を深める。 ②他者との関わりを体験し、援助的な対話の技術や態度・理論を追求する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					カウンセリングやコミュニケーションの知識や技術について、説明することができる。	
		○				カウンセリングやコミュニケーションの技術を活用できるようになる。	
				○		人と積極的に関わり、他者に配慮する姿勢をもつことができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	「子育て支援カウンセリング」石川洋子編／図書文化 「心理学理論と心理的支援」社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プレゼンテーション				プレゼンテーションの練習	
	2	プレゼンテーション				講義内容の復習・課題	
	3	自分を知る「コミュニケーションの傾向」				講義内容の復習・課題	
	4	自分を知る「コーチング」				講義内容の復習・課題	
	5	自分を知る「ストレス・マネジメント」「アンガー・マネジメント」				講義内容の復習・課題	
	6	自分を知る「アサーション」				講義内容の復習・課題	
	7	カウンセリングの技術「アイ・コンタクト」				講義内容の復習・課題	
	8	カウンセリングの技術「表情」				講義内容の復習・課題	
	9	カウンセリングの技術「ジェスチャー」				講義内容の復習・課題	
	10	カウンセリングの技術「態度」				講義内容の復習・課題	
	11	カウンセリングの技術「聴く」				講義内容の復習・課題	
	12	カウンセリングの技術「伝える」				講義内容の復習・課題	
	13	受容と共感				講義内容の復習・課題	
	14	子育て支援				講義内容の復習・課題	
15	まとめ				レポートの作成		
評価方法	(1)確認テスト、レポート (2)実技試験 (3)課題・発表・取り組みの姿勢 以上を下記割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト・レポート	◎	◎		○		40%
	実技試験		◎		○		30%
	課題・発表・取り組みの姿勢		○		◎		30%
履修上の注意							

科目名	障害児保育						
科目名(英)	Special Needs Nursing						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	中藤広美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども保育科2年						
授業概要	集団保育の場において障害や発達遅れのある乳幼児を保育する時に大切にしなければいけないことはどのようなことか。障害についての知識を得ることはもちろんのこと、その子の心身ともに健やかな成長、発達を保障するとはどういうことなのかを考え、障害児保育の理解を深めることを目的とする。さらに、子ども一人ひとりの育ちを理解、把握しようとし、その子の発達や障害に応じた必要な援助を探ろうとするような力がつくような授業展開を予定している。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				乳幼児の障害について学び、障がいの特性を理解した上でそれらについて専門用語を使いながら説明することができる。	
		○				乳幼児の発達の特徴を理解し、発達年齢ごとの特徴を理解したうえで援助を探る必要性を説明することができる。	
		○				ICFの考え方についてよく理解し、インクルーシブ教育の必要性について考え自分なりの言葉で説明することができる。	
		○				発達障害児が生活しやすい環境の構造化や手助けの仕方を探り、保育現場での活用方法を説明することができる。	
			○			他者からの助言を受けつつ、障害児の身体的、心理的、社会的側面へ配慮について考え配慮を実行しようとする。	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる 障害児保育,尾崎康子他 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	保育現場にいる障害のある子ども 1 座学とグループワーク「イメージを出し合おう」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	保育現場にいる障害のある子ども 2 イメージの共有			前回実施したグループワークの発表用紙を仕上げておくこと		
	3	乳幼児期における障害特性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	乳幼児期の発達課題と障害特性 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	乳幼児期の発達課題と障害特性 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	個別:調べ学習「知的障がい、自閉症、ADHD、LD」の障害の特徴			教科書のどこに調べ学習のテーマが記載されているか確認し事前に読んでおくこと		
	7	調べ学習のまとめ			グループワークでまとめた発表用紙を次回までに仕上げていくこと		
	8	調べ学習の発表			事前に、発表分担を決め担当個所のメモを作成しておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	① 小テストを実施する。② レポート課題を出す。③ グループワークを行い発表会を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	◎	◎				50%
	レポート	○	◎				30%
	発表	○	○		◎		20%
履修上の注意	計8回の授業なので遅刻、欠席は極力しないように努力すること。						

科目名	相談援助演習(2年次分)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	島 京子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども保育科2年						
授業概要	相談援助に関わる知識と技術を理解し、実践的に修得することを目指す。そのために、相談援助の知識と技術に関わる他の科目との関連性も視野に入れつつ、総合的かつ包括的な援助、また地域福祉の基盤と開発に関わる具体的な相談援助事例を体系的に取り上げることにより、社会福祉士に求められる相談援助能力を養う。介護技術演習、高齢者模擬体験、福祉用具プラザ見学などを通じ、利用者理解を深め、関連分野との連携を深める						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○		○		相談援助の対象となる様々な実践モデルについて理解する。	
	○	○		○		相談援助の過程とそれにかかわる知識と技術について理解する。	
	○	○		○		相談援助の実際(権利擁護活動を含む。)について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	配布資料・生活支援の技術と環境整備(日本医療企画)・高齢者に対する支援と介護保険制度(中央法規)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会福祉について考えよう			社会福祉について学んだことを振り返っておこう		
	2	自分を見つめよう。長所を伸ばそう。			自分の長所・短所について考えておこう		
	3	それぞれの価値観について考えよう①					
	4	それぞれの価値観について考えよう②					
	5	専門職とは何か考えよう					
	6	社会福祉問題について考えよう①DVD"ペイフワード"鑑賞			自分の回りにある、福祉問題は何かがあるか考えてみよう		
	7	社会福祉問題について考えよう②福祉問題を出してみよう					
	8	社会福祉問題について考えよう③福祉問題についての取り組みを調べてみよう					
	9	社会福祉問題について考えよう④取り組みを発表しよう					
	10	社会福祉問題について考えよう⑤取り組みを発表しよう					
	11	高齢者・障がい者についての理解を深める①。					
	12	高齢者・障がい者についての理解を深める②。(福祉用具プラザの見学)					
	13	高齢者・障がい者についての理解を深める③(高齢者疑似体験)					
	14	高齢者・障がい者についての理解を深める④視覚障がい者・肢体不自由者(杖歩行)体験及び介助体験)					
15	まとめ・前期の振り返り						
評価方法	(①)宿題・レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		50%
履修上の注意							

科目名	相談援助演習(2年次分)										
科目名(英)											
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	島 京子						
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○						
対象学科・学年	こども保育科2年										
授業概要	相談援助に関わる知識と技術を理解し、実践的に修得することを目指す。そのために、相談援助の知識と技術に関わる他の科目との関連性も視野に入れつつ、総合的かつ包括的な援助、また地域福祉の基盤と開発に関わる具体的な相談援助事例を体系的に取り上げることにより、社会福祉士に求められる相談援助能力を養う。介護技術演習などを通じ、利用者理解を深め、関連分野との連携を深める										
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○		○		相談援助の対象となる様々な実践モデルについて説明できる。					
	○	○		○		相談援助の過程とそれにかかわる知識と技術について説明できる。					
	○	○		○		相談援助の実際(権利擁護活動を含む。)について説明できる。					
テキスト・教材 参考図書	配布資料・生活支援の技術と環境整備(日本医療企画)・高齢者に対する支援と介護保険制度(中央法規)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	相談援助技法について①									
	2	相談援助技法について②					前時の復習をしておくこと。				
	3	相談援助技法について③					前時の復習をしておくこと。				
	4	相談援助技法について④					前時の復習をしておくこと。				
	5	利用者に生活を豊かにする方法を考える①					前時の復習をしておくこと。				
	6	利用者に生活を豊かにする方法を考える②					前時の復習をしておくこと。				
	7	利用者に生活を豊かにする方法を考える③					前時の復習をしておくこと。				
	8	利用者に生活を豊かにする方法を考える④					前時の復習をしておくこと。				
	9	事例を用いて、食生活と栄養について考える①					前時の復習をしておくこと。				
	10	事例を用いて、食生活と栄養について考える②					前時の復習をしておくこと。				
	11	人権について考える					前時の復習をしておくこと。				
	12	事例を用いて衣類の着脱支援について学ぶ①					前時の復習をしておくこと。				
	13	事例を用いて衣類の管理・清潔について学ぶ②					前時の復習をしておくこと。				
	14	事例を用いて環境整備について学ぶ					前時の復習をしておくこと。				
	15	まとめ・後期の振り返り									
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	◎				50%				
	宿題・レポート	◎	◎		◎		50%				
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	地域福祉の理論と方法						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	黒岩 淳		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども福祉科 2年						
授業概要	教科書を通して、地域福祉の歴史や理論の発展、行政と住民の協働システム、地域福祉のための組織、ソーシャルサポートネットワークの視点など地域福祉の基礎について学ぶ。特に、社会福祉基礎構造改革による、福祉の考え方の変化は重要な視点である。また、2008年3月の厚生労働省「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」による、地域における「新たな支えあい」は、これからの社会保障のあり方も含め、福祉分野で働くものにとって、根本的に身に付けたい考え方である。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					地域福祉の考え方について説明できる。	
	○					行政と住民の協働による支えあいの重要性について説明できる。	
	○					コミュニティソーシャルワークという概念を理解し、地域福祉におけるソーシャルワーカーの役割を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書「地域福祉の理論と方法」(中央法規) 別途配布するレジメや資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション(講義内容や進め方、評価方法について)					
	2	第1章 新しい社会福祉システム①					
	3	第1章 新しい社会福祉システム②					
	4	第2章 地域福祉の基本的な考え方①			宿題・レポート提出を予定		
	5	第2章 地域福祉の基本的な考え方②					
	6	第3章 地域福祉の主体と福祉教育①					
	7	第3章 地域福祉の主体と福祉教育②					
	8	特別講義:「もりのようちえん」の実際			レポート提出を予定		
	9	第4章 行政組織と民間組織の役割と実際①					
	10	第4章 行政組織と民間組織の役割と実際②					
	11	第5章 コミュニティソーシャルワーク①					
	12	第5章 コミュニティソーシャルワーク②					
	13	第5章 コミュニティソーシャルワーク③					
	14	地域福祉についての考察					
15	まとめレポート提出						
評価方法	(1)授業への出席態度(出席率、私語・居眠りの有無等)。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験として、まとめレポートを実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業への出席態度	○			◎		30%
	宿題・レポート	○	◎				20%
	定期試験	○	◎				50%
履修上の注意							

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	柴田滋			
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○			
対象学科・学年	こども保育学科 2年							
授業概要	この科目では低所得者に関する諸問題を的確にとらえて効果的な支援策を導く能力を修得するとともに、貧困問題に関する関心を深め、解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成することを目的として講義を行う。							
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
				○		低所得者層の生活実態と福祉需要について説明できること		
	○					生活保護制度について説明できること		
	○					他の低所得者支援制度について説明できること		
	○					自立支援の意義と課題について説明できること		
	○					公的扶助制度の歴史について説明できること		
テキスト・教材 参考図書	低所得者に対する支援と生活保護制度 第5版 中央法規							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	貧困の概念 : 相対的貧困率、社会的排除				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	2	現代の貧困問題 : 「見えない貧困」、低所得層の福祉需要				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	3	福祉国家と生存権 : 福祉国家の意義と変容、生存権の性格				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	4	公的扶助の意義と役割 : 社会保険の定型性と公的扶助の補足性				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	5	公的扶助の歴史 : 救貧制度の歴史、生活保護法の成立				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	6	生活保護制度(I)保護の目的・原理・原則、受給資格				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	7	生活保護制度(II)福祉事務所の役割				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	8	生活保護制度(III)世帯認定、最低生活費の算定				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	9	生活保護制度(IV)資産調査と収入認定、保護の実施要領				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	10	生活保護制度(V)被保護者の権利義務、費用負担と扶養徴収				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	11	生活保護制度(VI)生活保護における援助活動				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	12	海外の公的扶助制度とその近年の改革動向 : アクティブエイジ				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	13	低所得者施策の基調転換 : 自立と連帯の推進				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
	14	第二のセーフティネット : 生活困窮者自立支援制度				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。		
15	その他の施策との連携:				各回の予習復習を行うこと。 各自に割り当てられたテーマの報告を準備すること。			
評価方法	講義を行ったうえで、レポート作成および研究発表会を各2回実施し、レポートの内容と研究報告によって評価する。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	宿題・レポート	○	◎		○		50%	
	発表・作品	◎	○		◎		50%	
履修上の注意								

科目名	音楽Ⅱ				
科目名(英)	music performance Ⅱ				
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	中村寛子
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	こども保育科2年				
授業概要	<p>保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していかなくてはいけない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。3年生は更に年度末にピアノ発表会があるため、課題曲(バイエル教本又はソナチネ曲集より任意の1曲)自由曲(何でも好きな曲1曲、Jポップ、クラシック何でも可)を練習する。ピアノが弾けるようになる喜びを感じてもらう為であり、何でも頑張ればできるようになるということを体感してもらうために、独自に考案した授業内容である。このことにより、自己肯定感が高まり、また、ピアノ技術のかなり向上する。</p>				
授業形式	講義: △	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法: ○ その他: △
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				音楽の基本知識となる、楽典を習得(楽譜、音符や休符、拍子、記号等の知識)する。
		○			ピアノ演奏実技を習得(正しい運指、テクニック、左右の手のスムーズな動きバラバラな動きに対するスムーズな動き)する。
		○			声楽の基本実技を習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)する。
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本・声楽教本 ・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック ・チャイルド社発行/こどものうた100 ・音楽の友社発行/バイエル教則本・講師作成の楽譜集(ファイル保管) 				
回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
1	・今期のガイダンス(10分)・バイエル73番の解説(15分)・バイエル73番練習(65分)			授業までにバイエル73番を弾いてくる	
2	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル75番の解説(15分)・バイエル75番練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			バイエル75番を弾いてくる	
3	・おはようの歌の実習(5分)・めだかの学校(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			めだかの学校の弾き歌いを練習してくる	
4	・おはようの歌の実習(5分)・おかあさん(こどもの歌100)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			おかあさんの弾き歌いを練習してくる	
5	・おはようの歌の実習(5分)・こいのぼり(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典知識の解説(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			こいのぼりの弾き歌いを練習してくる	
6	・おはようの歌の実習(5分)・とけいのうた(近大教本)の解説(15分)・楽典知識の復習(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			とけいのうたの弾き歌い練習をしてくる	
7	・おはようの歌(5分)・大きな古時計(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・楽典知識の解説(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			大きな古時計の弾き歌い練習をしてくる	
8	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる	
9	・おはようの歌の実習(5分)・すてきなパパ(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			すてきなパパの弾き歌い練習をしてくる	
10	・おはようの歌の実習(5分)・おつかいありさん(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			おつかいありさんの弾き歌い練習をしてくる	
11	・おはようの歌の実習(5分)・あめふりくまのこ(近大教本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			あめふりくまのこの弾き歌い練習をしてくる	
12	・おはようの歌の実習(5分)・しゃぼん玉(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			しゃぼん玉の弾き歌い練習をしてくる	
13	・おはようの歌の実習(5分)・とんぼのめがね(近大教本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			とんぼのめがねの弾き歌い練習をしてくる	
14	・おはようの歌の次週(5分)・せんせいとおもたち(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			せんせいとおもたちの弾き歌い練習をしてくる	
15	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる	
16	・おはようの歌の実習(5分)・もりのくまさん(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			もりのくまさんの弾き歌い練習をしてくる。	
17	・おはようの歌の実習(5分)・ふしぎなポケット(近大教本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			ふしぎなポケットの弾き歌い練習をしてくる	
18	・おはようの歌の実習(5分)・さんぼ(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			さんぼの弾き歌い練習をしてくる	
19	・おはようの歌の実習(5分)・いとまき(近大教本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)			いとまきの弾き歌い練習をしてくる	
20	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル78番(バイエル教則本)の解説(15分)・楽典知識の解説(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			バイエル78番を弾いてくる	
21	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる	
22	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる	
23	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格できるように、よく練習してくる	

授業計画	(1) 授業中の課題曲(小テスト)、(2) 定期試験(ピアノ、声楽、筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
24	前期試験					
25	・後期授業のガイダンス(15分)夏休み宿題の確認(バイエル80番、81番)・練習(75分)					バイエル80番、81番を弾いてくる
26	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル80番、81番の練習(60分)・楽典の解説(25分)					バイエル80番、81番を弾いてくる
27	・おはようの歌の実習(5分)・まつぼつくり(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)お帰りの歌の実習(5分)					まつぼつくりの弾き歌い練習をしてくる
28	・おはようの歌の実習(5分)・おもちゃのチャチャチャ(近大教本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)					オモチャノチャチャチャの弾き歌い練習をしてくる
29	・おはようの歌の実習(5分)・まっかな秋(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・楽典の解説(15分)・練習(50分)・お帰りの歌の実習(5分)					まっかな秋の弾き歌い練習をしてくる
30	・おはようの歌の実習(5分)・うんどうかい(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)					うんどうかいの弾き歌いの練習をしてくる
31	・おはようの歌の実習(5分)・思い出のアルバム(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)					思い出のアルバムの弾き歌いを練習してくる
32	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)					すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
33	・おはようの歌の実習(5分)・やぎさんゆうびん(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)					やぎさんゆうびんの日恋歌意を練習してくる
34	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル88番(バイエル教則本)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)					バイエル88番を弾いてくる
35	・おはようの歌の実習(5分)・ことりのうた(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)					ことりのうたの弾き歌いをしてくる
36	・おはようの歌の実習(5分)・あわてんぼうのサンタクロース(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)					あわてんぼうのサンタクロースの弾き歌いをしてくる
37	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)					すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
38	・おはようの歌の実習(5分)・まめまき(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)					豆まきの弾き歌いを練習してくる
39	・おはようの歌の実習(5分)・うれしいひなまつり(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)					うれしいひなまつりの弾き歌いを練習してくる
40	・おはようの歌の実習(5分)・いぬのおまわりさん(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)					いぬのおまわりさんの弾き歌いを練習してくる
41	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル100番(バイエル教則本)の解説(15分)・楽典(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)					バイエル100番を練習してくる
42	・おはようの歌の実習(5分)・なんでもたべるこ(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)					なんでもたべるこの弾き歌いを練習してくる
43	・おはようの歌の実習(5分)・バスごっこ(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)					バスごっこの弾き歌いを練習してくる
44	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)					すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
45	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(6分)					すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
46	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(7分)					すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
47	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(8分)					すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
48	後期試験					
評価方法						
	定期試験	◎	◎			80%
	小テスト		◎	○		20%
履修上の注意	授業の課題曲をすべて合格しない者は、定期試験の資格がないものとして、受験不可とする。					

科目名	教育実習指導(後期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	岩田 佐知子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が円滑に有意義に行われるように、教育実習に関わった基礎的な知識の理解を深めていく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		教育実習のに向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎知識を理解する。	
	○	○		○		記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。	
	○	○		○		「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・同文書院 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育園・児童福祉施設等実習ガイド ・近畿大九州短期大学 幼稚園実習事前指導 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自主実習の振り返り					
	2	設定保育①					
	3	設定保育②					
	4	設定保育③					
	5	設定保育④					
	6	実習前面接					
	7	実習の心構え、記録の書き方、オリエンテーションについて、書類・記録簿ファイリング					
	8	実習準備					
	9	実習の振り返り					
	10	保育実技(エプロンシアター作成)					
	11	保育実技(エプロンシアター作成)					
	12	保育実技(エプロンシアター発表)					
	13	評価替えし					
	14	2年次実習の振り返り、3年次じっしゅうについて(スケジュール確認)					
15	2年次実習の振り返り、3年次じっしゅうについて(反省)						
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施なし。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)実技試験を実施する。 (4)実習評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習評価	○	○		○		50%
	宿題・レポート	○	○		○		20%
	発表・作品	○	○		○		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、実技試験の受験資格を与えない。						

科目名	図画工作						
科目名(英)	art representation						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	屏賀 一男		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども保育科 2年						
授業概要	幼稚園教諭や保育士として、あるいは障害者施設や高齢者施設に必要な分野の実技基礎演習を実践する。幼児教育における造形の専門的知識や色彩・構図・教材の特性を知るうえで、平面表現・立体表現を問わず教材・用具の使い方と安全確保・後片付けについて学ぶことは不可欠である。また、現代の時流に合った教材を用いた具体的な実践演習、造形表現教育についても理解する。						
授業形式	講義:	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					美術に対する苦手意識を克服することで現場で、自分の役割を理解することができる。	
	○					図画・造形表現を体験することで、画材・教材の特徴・性質を理解することができる。	
	○					日本古来の伝統工法を体験することで、感受性・創造力・集中力を養うことができる。	
	○					個性的な表現力のために、思考能力を発揮し、自己の文章・言葉で説明できるようになる。	
○	○					自己表現する能力を深めることで、豊かな感性と人間性を身につける事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学 造形表現(指導法) 図画工作						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	色紙による感情表現			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	2	フロッタージュ			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	3	ウエルカムボード①			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	4	ウエルカムボード①			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	5	マーブリング染め			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	6	水墨画			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	7	正試験(筆記50点、実技50点)			正試験を実施するので、造形表現(指導法)を復習しておくこと		
	8	ポスターの制作①			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	9	ポスターの制作②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	10	スタンドグラス①			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	11	スタンドグラス②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	12	ダンボールアート①			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	13	ダンボールアート②			今回の授業を踏まえ、レポートを作成する。		
	14	正試験(筆記50点、実技50点)			正試験を実施するので、造形表現(指導法)を復習しておくこと		
15	再試験			正試験59点以下は再試験を受験すること			
評価方法	(1)授業の中で正試験を2回実施する。(2)レポートを10回以上実施する。(3)定期試験(筆記・実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		◎		50%
	発表・作品	○	◎		◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	相談援助の理論と方法(2年次分)				
科目名(英)					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	藤井成樹
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	こども保育科2年				
授業概要	ソーシャルワーカーとして、社会福祉士及び介護福祉士法第2条にいう、「相談援助」＝「身体上もしくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障があるものの福祉に関する相談に応じ、助言、「指導、福祉サービスを提供するもの又は医師そのほかの保健医療サービスを提供するものその他の関係者との連絡及び調整そのほかの援助を行うこと」に関する業務を実践するために必要な、知識についてスクールソーシャルワーカー等の事例を交えて学ぶ。また、社会福祉士国家試験の過去問をとおり、学んでいることが国家試験レベルで求められていること、実践をする上で必要であることについて把握する。				
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
		○		△	
		○		△	
	○	△			
目標	スクールソーシャルワーカーの業務について説明できる。				
目標	ソーシャルワーカーに必要な資質について説明できる。				
目標	ソーシャルワークを行ううえで必要な専門用語を理解できる。				
目標					
目標					
テキスト・教材 参考図書	スクールソーシャルワーカーのしごと(中央法規) 教師作成プリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	学校ソーシャルワークの役割-ソーシャルワークとは何か			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	2	学校ソーシャルワークの役割-社会福祉援助の対象、福祉の援助が必要となるとき			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	3	学校ソーシャルワークの役割-マズローの欲求階層図、貨幣的ニーズと非貨幣的ニーズ、国家試験過去問			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	4	学校ソーシャルワークの役割-社会福祉援助の機能、専門職としてのソーシャルワーカーの要件			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	5	イギリスとアメリカにおける社会福祉援助技術のあゆみ-イギリスにおける社会福祉援助技術の発展史			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	6	イギリスとアメリカにおける社会福祉援助技術のあゆみ-イギリスにおけるCOS活動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	7	イギリスとアメリカにおける社会福祉援助技術のあゆみ-アメリカにおける社会福祉援助技術の発展史			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	8	イギリスとアメリカにおける社会福祉援助技術のあゆみ-ケースワークについて			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	9	イギリスとアメリカにおける社会福祉援助技術のあゆみ-グループワークについて			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	10	グループワーク事例-ソシオメトリー、ソシオグラム、ソシオマトリックス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	11	グループワーク事例-コノプカのグループワーク			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	12	集団力学-集団力学の基礎理論-公式・非公式組織			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	13	集団と効果-社会的な抜き-ホーソン効果、同調効果、国家試験過去問			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	14	集団とリーダーシップ-PM理論、国家試験過去問			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	15	まとめ-単元の振り返り、確認テスト。			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	16	相談援助における対象の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	17	ケースマネジメント(ケアマネジメント)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	18	グループを活用した相談援助			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	19	コーディネーションとネットワーク			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	20	相談援助における社会資源の活用・調整・開発			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	21	様々な実践モデルとアプローチ1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	22	様々な実践モデルとアプローチ2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	23	様々な実践モデルとアプローチ3			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	24	スーパービジョンとコンサルテーション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	25	ケースカンファレンスの技術			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと

	26	相談援助における個人情報の保護	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	27	相談援助におけるICTの活用	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	28	事例研究・事例分析	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	29	相談援助の実際	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	30	まとめ-単元の振り返り、確認テスト。					
評価方法	(1)授業態度(出席率、私語・居眠りの有無) (2)15回目と30回目の確認テストを下記の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				○		50%
	確認テスト	○	○				50%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、単位を与えない。						